opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 69

1959年10月、新教皇を選ぶ選挙(コンクラーベ)が招集されると、聖ホセマリアは、「新教皇が選ばれる前から、教皇を愛さねばならない」と周囲を励まします。

2025/02/05

過去の記事はこちらから

カトリック信者はローマ教皇を「パパ様」と呼びます。これは教皇がキリストから首位権を授けられた使徒

ペトロの後継者として教会を統治する役目を持っているのと同時に、信者全員の父のような存在であるからです。聖ホセマリアは、教皇に対するこの崇敬と子供として愛情を若いときから強く感じており、周囲にもこの信心を勧めていました。

創立者が初めて会った教皇がピオ12世(在位1938~58年)でした。ピオ12世は第二次世界大戦を教皇とととという中のでありますが、ダホンの上にもという中傷がありますで(『照かりますでは出にも尽力というでからでからというでからでからであります。

1959年10月初旬、このピオ12世重篤 とのニュースが広がりました。聖ホ セマリアはすぐに教皇のために祈 り、またオプス・ディのメンバー早 も祈りを頼みました。教皇は9日間 も祈息を引き取りました。9日間の後、19日に葬儀ミサが挙載に 要の後、19日に葬儀ミサが強表を 東欧諸国からとがである。 東欧諸ーランドでとった もからないが独れたの は、大司な教会をヴィアのとして大明の をガリーのチングェンと やクロリませんでした。

その後、新教皇を選ぶ選挙(コンクラーベ)が招集されると、聖ホセマリアは、「新教皇が選ばれる前から、教皇を愛さねばならない」と周囲を励ましました。3日間選挙が繰り返された後の10月28日、選挙成立を知らせる白い煙がシスティーナ礼を知らせる白い煙がシスティーナ礼精堂の煙突から上ると、創立者は新教皇の名前が発表される前に跪いて祈りました。

ヨハネ23世を名乗った新教皇は農民 出身で、ブルガリアやトルコやギリ シアで教皇の代理として働き、そカト 気さくで優しい性格のおかげでカト リックとは冷たい関係にあってたこの ラの国々との関係を修復し、そのま がェネツィア大司教になっていました。 でに77歳でしたが健康でも た。翌年の1月、教皇は驚くべき た。翌年の1月、教皇は驚くべき 言を出されました。公会議を開催すると発表されたのです。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-69/ (2025/12/15)